

HIDEYO SALON

お待たせしました。サロン・コンサート N.25 のご案内です。
大阪倶楽部で年 2 回開催しております『HIDEYO SALON』は、皆様の暖かいご支援に支えられまして、お陰さまで第 25 回を迎えることになりました。
そこで、今回は『**第 25 回記念**』と銘打って、ヴァイオリンとフルートのゲストをお迎えして、ステキなコンサートを企画しました。

第一部では、ヴァイオリン奏者**マウロ イウラート(Mauro Iurato)**さん(第 24 回出演)、フルート奏者矢野正浩さん(第 22 回出演)、ピアニスト**正田歩**さん(第 18 回レギュラー)、そしてソプラノ**南雲英代**が、ソロ&アンサンブル・コンサートを皆様にお届けいたします。

第二部は、レハール作曲・喜歌劇 “**Die lustige Witwe** (メリー・ウィドー)” のダイジェストを四重奏アレンジでご紹介します。舞台は 1900 年頃のパリ。架空の小国ポンテヴェドロの公使館。身分違いで結婚できなかったハンナとダニロ伯爵。ハンナは富豪と結婚しそして未亡人に。遺言状には「再婚した際、財産は彼女のものではなくなる」と。その途端、求婚者達は即座に撤退。かわってダニロ伯爵はハンナに愛を告白し、真実の愛を確信したハンナは「その財産は再婚相手のものになる」と公表、二人は結ばれハッピーエンドで幕となります。

捕まえようとする、ふっと姿を消してしまう森の精ヴィリアを歌った「**ヴィリア・リート**」。パリ・マキシムのムードを軽やかに歌い上げるフレンチカンカンの「**シャンソン**」。ハンナとダニロ伯爵の、言うに言われぬお互いの苦しい胸の内を歌った二重唱「**ときめく心**」。そして、全てめでたしの「**フィナーレ**」では、なかなか本音のわからない女心の魅力を高らかに讃えます。

休憩時のフェスタは、神戸六甲『**リストランティエーノ UZU**』さんがピエモンテの赤ワイン(蔵出し生)にぴったりのミニオードブルを用意して下さいます。

『**第 25 回記念**』にふさわしく、ちょっぴりリッチな気分を味わって下さいね!!

2009 年 03 月 28 日 南雲英代

* **L.S.N.会員の皆様がお誘い下さいました方々も、割引チケットをお求めいただけます。**

* **チケットは、先着 180 名様です。なるべくお早めにお求め下さいね。**